

住まいをなくした人、生活困窮や障がい、生きづらさを抱えた人たちの再出発を支援しています。

## 活動紹介

リーマンショック後、派遣や非正規雇用から職を失って住まいも失う人々が大幅に増えました。彼らが再び路頭に迷うことなく社会の中で生きていくことができるよう、また生活に困ったり、孤立状態にある、障がいや生きづらさを抱えている人たちが生きやすい社会をつかっていくため、「支援ハウス・ホープ」・「シェアハウスこうじゅ(関西光澍館)」・「就労支援センター・ホープ・エッグ」などの支援事業を行っています。

住まいを失った人や、生活困窮・孤立状態にある人たちの中には、育ってきた環境や低学歴、正社員経験・社会人経験の薄さ、メンタル面の弱さ、知的や発達障がいのボーダーラインなど、安定した雇用を得るには困難な要因を複合的に抱える人が多いのが現実です。大阪希望館は、そうした人たちの生活の立て直しと自立をサポートしていくために、労働組合や宗教界の方たちと協力しあって、いくつかの支援事業を行っています。

また地域貢献活動やサロン運営を通じて、セーフティネットになれる地域を、住民のみなさんと一緒につくる活動もおこなっています。



(市営住宅清掃) 地域貢献活動



支援ハウス談話室



シェアハウスこうじゅ(関西光澍館)



就労支援センター・ホープ・エッグ

## 団体概要

- 1、2009年5月に大阪市北区天六周辺地域で、支援用居室と事務所を開設。
- 2、同年7月、連合大阪、大阪労福協、カトリック大阪大司教区、大淀寮、NPO釜ヶ崎等のさまざまな団体・個人が集まって、市民ネットワークとして大阪希望館運営協議会(名誉館長・難波利三氏)を設立。
- 3、2012年2月、運営協議会の事業法人として「一般社団法人大阪希望館」を設立。
- 4、2014年11月、地域活動センターとして借りている廃業銭湯の隣に事務所を移転。
- 5、2015年5月、地域活動センターに、(障がい者)就労移行支援事業所「ホープ・エッグ」と「まちかどサロンほっぼ」を開設。 2017年6月、ホープ・エッグを就労移行と就労継続B型の多機能型に変更。
- 6、2020年2月、立正佼成会から建物を借り、豊中市に「シェアハウスこうじゅ(関西光澍館)」を開設。

一般社団法人 大阪希望館

TEL06-6358-0705 fax06-6358-0706

大阪市北区天神橋7-13-15

email:kiboukan@kiboukan.or.jp

HP <http://www.osaka-kiboukan.jp/>

# (大阪のまちを大きなセーフティネットに!) 大阪希望館の主な事業

## 1、支援ハウス「ホープ」

住まいを失った若者(主に20~40代)に、仮住まいを提供しながら、就労と生活の立て直しをサポートします。大阪府の一時生活支援事業の受入もしています。

◇ 現在、個室の支援居室6室と談話室(シャワー・洗濯ルーム兼用)の計7室で運用。



## 2、シェアハウスこうじゅ(関西光瀬館)

豊中市の庄内で、40室ある大規模なシェアハウスを運営しています。生活に困っている方、社会から孤立状態にある方、一人暮らしでは不安な方を受け入れ、生活をサポートします。家賃は月4万円、初期費用や緊急連絡先がない、家賃保証会社の審査に通らない場合でも、共同生活さえ可能であれば入居できます。

◇ 大阪府豊中市穂積1丁目2-25 Tel: 06(6151)9826 fax: 06(6151)9827



## 3、電話相談・メール相談

住まいを失くした人、失くしそうな人の電話相談、メール相談を受けます。シェアハウスこうじゅへの入居相談、ホームレス自立支援センター入所や生活保護、総合支援資金貸付などの申請方法に関する情報などをお伝えします。

◇ 電話相談 06-6358-0705 日祝除く11:00~16:00

◇ メール相談 [osaka.kiboukan@gmail.com](mailto:osaka.kiboukan@gmail.com) 随時



## 4、就労支援センター・ホープ・エッグ(就労移行支援と就労継続B型の多機能)

主に発達・知的・精神の障がいを抱える人たちなどに、「居場所・行き場所」にしてもらいながら、働くための心と体と社会性をつちかって、就労に向かうサポートをします。手帳を持っていなくても参加できます。

◇ 日祝除く9:15~16:00(週2~3日でも利用できます)



## 5、まちかどサロン「ほっぼ」・まちかど相談室

地域の幅広い世代の皆さんに「居場所・交流場所・息抜きの場所」として利用してもらっています。

◇ 水曜・金曜13:00~16:00

